

道頓堀には、おもろい看板、おもろい人、おいしい店、全て揃ってます。
本当にありがたい話、一日 10 万人以上、来街者が来ますので
活気もありますし、親しみやすく、人情があって、歩いているだけで楽しめる、
これぞ大阪！そういう街でございます。

一方で、ゴミがゴミを呼ぶという現象。
これが、我々の頭を本当に悩ませていました。
ゴミというのは、誰かが一つ捨てる、その上から捨てる、要するに
ゴミがゴミを呼ぶという現象が起こります。
いつのまにかゴミのチリがいつの間にか山となって道路にできるわけですね。
このゴミをどうして処理していくんだ。
誰が見ても印象が悪い。誰が見ても気分が悪い。
この美しい道頓堀をゴミで埋めるわけにはいかん、
本当に我々はそこに課題をもって悩んでいたところです。

大阪が、国際観光都市へのステップアップするためには。
”ゴミが溢れる街並み”の解決は必至。

NTT コミュニケーションズは、
道頓堀が抱える長年の地域課題と、真剣に向き合いました。

地域だけで解決できないなら、みんなで取り組んでみたらどうだろう？
必要なのは、そう。共創でした。

私たちが提供したのは、
これまでに培ったアイデアと ICT 技術とネットワーク。

地域や自治体、企業を巻き込み、共創の枠組みを作り上げました。
そして、実施したのが道頓堀エリアへのスマートゴミ箱の設置。

もちろん、ただのゴミ箱ではありません。

ICT 技術を活用したこのスマートゴミ箱は、

ごみの蓄積状況をクラウド上でリアルタイムに把握できるとともに、内部で自動的にごみを圧縮し、ごみ箱が満杯になる前に通知される機能を搭載。

地域、自治体、企業が、それぞれの役割を發揮しながら共創事業としてこのスマートゴミ箱の運用を開始しました。

街と企業。一緒にやっという組織を作りましてですね、それが、今のIoTゴミ箱に発展したわけですけども。実証実験をいろいろしまして、相当ゴミが減った、これならいけるのではないかなど。そんな感触を持ちましたね。この一歩が世界に誇れる、世界一の商店会になる、本当に第一歩ではないかと思っています。

今後は、このエリアのスマートゴミ箱へ広告掲出や、取得データによる観光マーケティングへの活用によってスマートゴミ箱を継続的に運用できるよう地域自走型のビジネスモデルの確立を進めています。

大阪道頓堀エリアのスマートゴミ箱の設置は大阪だけでなく、世界中の観光地におけるサステナブルツーリズムの取り組みのスタート地点です。

地域課題の解決を起点とした共創事業によって、日本中のあらゆる地域が持続可能な観光地として発展できるようNTTコミュニケーションズは、地域と課題に向き合い続けます。

共創で、(街、人、環境)世界は変わる。

[END]